

第3回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の概要

【第4回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議資料】

第3回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の開催概要

- 日時：平成29年11月22日(木)午後2時から午後4時まで
- 場所：県庁行政庁舎 第二会議室
- 議事：(1)第2回有識者会議・市町会議の概要について
(2)震災の記憶・教訓の伝承について
(3)その他

○委員名簿

座長	今村 文彦	東北大学災害科学国際研究所所長・教授
委員	阿部 重樹	東北学院大学経済学部共生社会経済学科教授
〃	石塚 直樹	一般社団法人みやぎ連携復興センター代表理事
〃	臼井 弘	気仙沼市自主防災組織連絡協議会会長
〃	太田 倫子	一般社団法人キッズ・メディア・ステーション代表理事
〃	小田 隆史	宮城教育大学附属防災教育未来づくり総合研究センター准教授
〃	武田 真一	河北新報社防災・教育室長
〃	塚原 大介	みやぎ観光復興支援センターセンター長
〃	宮下 加奈	一般社団法人減災・復興支援機構専務理事
〃	宮原 育子	宮城学院女子大学現代ビジネス学部学部長・教授【欠席】

第3回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の主な御意見

(2)震災の記憶・教訓の伝承について

①震災の記憶・教訓の伝承の理念について

【理念のあり方】

○「誰に」「何を」「どのように」「誰が」のほかに、「なぜ」伝承する必要があるのかを高らかに謳っておく必要がある。【阿部委員】

○文化の創造と、大規模震災に関心と理解を持つという、教養としての共有を謳ってはどうか。【阿部委員】

【具体的な目標】

○具体的な活動の目標を定めること自体は異論はない。【塚原委員・武田委員】

○期間が震災後30年ということが適切か議論の余地がある。【塚原委員】

○30年は長すぎる。震災時に一番大変な思いをした生き証人がほぼいなくなって、生きた言葉が伝わりにくくなってしまう。目標を短くするか、30年後には確立するが、ずっと続けているという書き方が必要。【宮下委員】

○目標設定することは大事だが、それを検証・評価する仕組みも必要。【石塚委員】

第3回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の主な御意見

①震災の記憶・教訓の伝承の理念について

【具体的な目標】

○防災・減災の地域文化を創造するほか、外に向かった発信という視点が必要。【武田委員】

○「災害対応力と発信力のある地域社会」＝「宮城モデル」なのか問われている。仮説として示すのは大事だが、復興を振り返った時に明らかになってくるのでは。【石塚委員】

○具体的に減災に対して地域社会でどう取り組むのか、具体的な目標の中に掲げた方が分かりやすい。【臼井委員】

○具体的な目標とあるが、漠然として、具体的な感じがしない。【太田委員】

○県民挙げての啓発活動参加や、新たな宮城発の啓発の仕組みを作っていくことが書いてあってもいい。【武田委員】

【その他】

○それぞれの項目の関係性を図示できれば、その後の連携ネットワークの議論にもつながってくるのではないかと。【石塚委員】

第3回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の主な御意見

②「誰に」伝承するのか

【地域に住む人】

○障害を持たれている方や子供たちの取組についても、外部では興味を持つところ、女性だけを打ち出すのは違和感がある。【宮下委員】

【地域外の人】

○近い将来に被害が予想されている地域があり、そのニーズは強い。別出しで位置付けるべき。【武田委員】

③「何を」伝承するのか

【知識・教訓】

○できなかつたこととできたこと、できなかつた反省点とできてよかったことの両面を伝えるのがすごく大事だと思う。【宮下委員】

第3回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の主な御意見

④「どのように」伝承するのか

【伝承の手法】

- 地域外からの受入体制だけではなく、地域外への伝承・発信を強く打ち出さないとこじんまりしてしまう。理念を内向きと外向きの二本立てにするようなやり方がいい。【武田委員】
- 自主防災組織とつながった形で県民が体験できる当たり前の対応を考えることに結び付けてもらいたい。【臼井委員】
- 地域文化の創造という文脈では、既存組織も含めた形で何かもっと新しいことをやれないのか、ないしは強力なものをやれないのか、効果的なものをやれないのかを考えていかななくてはいけない。【武田委員】
- 伝承と啓発にどう取り組むか、全編通して整理しなければいけない。そうすると、具体的に何をするのか。あるものを伝えて、伝える仕組みさえ作ればいいということでは無く、もっともっと働きかけていくような方向性を作っていかななくてはならないと、文化の創造までにはならない。【武田委員】
- 伝承として我々が狙っているのは世代を超えてということですので、この内容とかやり方というのは、実は世代を見ながら変えても、発展してもいい。改善、発展が無いと継続できない。【今村座長】

第3回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の主な御意見

④「どのように」伝承するのか

【アーカイブ】

○前回、アーカイブの活用方法が大切と指摘したが、市民レベルでの情報・体験について全部出尽くせたか疑問。取りまとめ以前の掘り起こしということを、伝承の大前提としてやらなくてはならないという認識は強く持っておかないといけない。【武田委員】

【伝承の取組】

○「どこで」という場所の話が出てくる。広い地域の被災をどこで伝承するのかという論点が非常に重要になってくる。【武田委員】

第3回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の主な御意見

⑤「誰が」伝承するのか

【取組主体】

○被災体験を直接持っておられる方々の動きが既に始まっているという前提での組み立てが非常に大切。【武田委員】

【県全体の伝承を牽引する組織の必要性】

○神戸や中越の組織と比べながら、宮城県としてどこを狙っていくのかの考慮をお願いしたい。
【今村座長】

○活動にスポットを当てて、何かの回路を通じて空間的に外に発信していくような仕組み、ローカルのことを盛り上げる仕組みなど、既にやられている人たちだけということではないように、書き方に気を付けなければならない。【小田委員】